

令和7年度 兵庫県立村岡高等学校 学校評価（最終評価）

評価は4点満点。「よくできた」を4点、「できた」を3点、「あまりできなかった」を2点、「できなかった」を1点とし、回答した教職員の平均点を評価の数値とした。

教育指針
人みな使命あり

スクール・ミッション
「人みな使命あり」の理念のもと、課題発見・解決能力、プレゼンテーション能力、新たな価値を創造する能力、コミュニケーション能力、議論する力、コーディネート能力、自己表現能力を備え、創造的に地域と協働する人材を育成する。

スクール・ポリシー
(1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 目指す人物像：地域を学びのフィールドとした高校生活をととして、創造的に地域と協働できる人物
- ② 地域との協働に必要な3つの力Ⅰ「考える力」：課題発見能力、課題解決能力、新たな価値を創造する能力
- ③ 地域との協働に必要な3つの力Ⅱ「行動する力」：コミュニケーション能力、コーディネート能力、議論する能力
- ④ 地域との協働に必要な3つの力Ⅲ「伝える力」：プレゼンテーション能力、自己表現能力

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 個別最適な学びⅠ：少人数・習熟度別による授業、ICTの活用
- ② 個別最適な学びⅡ：特別な配慮を必要とする生徒への対応「替える学習」「加える学習」
- ③ 個別最適な学びⅢ：「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」の蓄積
- ④ 地域と協働した学びⅠ：村高発☆地域元気化プロジェクト、全校スタッフ
- ⑤ 地域と協働した学びⅡ：村高だけの学校設定教科・科目「地域協働活動」「地域探求」

(3) アドミッション・ポリシー

- ① なにを？：村高の授業をととして高めた経験値を活かして、進路実現する意欲のある人
- ② だれと？：多様な仲間とともに、豊富な特別講師や地域の人と協働して学ぶ意欲のある人
- ③ どこで？：村岡の大自然豊かな地域全体をフィールドとして学ぶ意欲のある人

評価項目	R7 評価	評価と改善プラン	学校関係者評価
I 地域との協働、家庭との連携による教育活動の充実			
1 P T Aや家庭との連携により生徒理解を進め、生活指導や進路指導に生かしている。	3.2	メール等による保護者への情報配信、三者懇談や通信の発行等を通して、家庭との連携を図り、生徒理解に努め各種指導に生かすことができた。	3年間の学び、蓄積をどう語れるか、しっかり話すこと、自分がやってきたことを持っていることが大切となる。
2 ホームページや学校通信等により、地域へ適切に情報発信している。	3.5	ホームページのリニューアルを行い、学校の特色・雰囲気がより正確に伝わるようになった。問合せフォームを設け、外部との情報交換もしやすくなった。また、インスタグラムを開設し、生徒による情報発信も行った。学校の魅力をより見える化する情報発信方法を模索していく必要がある。	探究、プレゼン能力、高校生としてのコミュニケーションの取り方を学べている。進路でも自分の意見を言えるように、地域を学ぶことを今後も続けてほしい。今後はマンネリ化しないように、どの方向に持っていくのか、昨年と比較してどこをどう改善したのか、の発表をしていってほしい。進学等で都市部に出ても、帰ってきて地元に残ってもらうことが大切。移住してもらうのは難しい。地元の人が地元に残るように。
3 地域資源（環境資源・人的資源）を積極的に活用し、教育活動の充実を図っている。	3.5	学校設定教科「地域探求」・「総合スポーツ学」・「総合的な探究の時間」・「表現」・「フードデザイン」等においても地域資源・地域人材の積極的な活用により教育活動が充実したものになった。さらなる地域資源の有効活用を模索していくことが重要である。	
4 関係機関や大学との連携により教育活動を活性化し、生徒の多分野への興味・関心を高めている。	3.3	町行政・町教育委員会・大学・地域団体等との連携はもちろん地元の小学校・特別支援学校との交流授業を通して生徒の興味・関心を高めることができつつある。さらなる連携を通して「ふるさと教育」の充実を図っていききたい。	
5 地域を学びの場とすることで、生徒の地域への理解を深め、ふるさと意識を醸成している。	3.5	地域協働活動を通して経験値を高めたと生徒の99%、保護者の97%がアンケートに回答しており、概ね成果を挙げている。今後も継続して取り組む必要がある。	
II 主体的な学び、確かな学力の定着等			
1 少人数・習熟度別授業、ICT機器の活用等により、授業の充実を図っている。	3.4	個々に応じた基礎学力の育成を目指して、国数英の教科については習熟度別にクラスを分けて個々の学力に応じた学習環境を整備した。またICTを活用した授業の推進のため、今年度は各講義室にプロジェクタが設置され、体育館にはwi-fiのスポットが設置された。整備された環境を活かして、授業の中で効果的にICT機器を活用してもらいたい。ICT機器を活用した実践例等の教員向け研修を先生方に紹介し個々に修養していただける機会を提供したい。	なぜ自分が村岡高校を選択したのか、実際入学してからどうであったのか、など原点にかえて生徒が考えることは価値がある。総合的な探究の時間の発表では、過去からのつながり・蓄積がなかなか見えてこない。積み上げてきたものをどう分析し、どう活用するのが大切。地域とのつながりを継続させて進化させる。教育内容の見直しが問われている。
2 学校設定教科・科目は、地域と協働する探究活動として、生徒の「考える力」「行動する力」「伝える力」を育成している。	3.3	地域と連携した協働性のある学びを推進するため、地域アウトドアスポーツ類型では、行政や大学、専門学校だけでなく地元講師の方々にもご協力いただき学びを深めている。授業の中では様々な体験活動が展開され、その中で生徒同士の協調性も高まっている。授業評価、講師の活用成果を入念に分析して、より深みのある学びが実現できるようにしたい。	
3 総合的な探究の時間は、地域貢献だけでなく、生徒の協働する力やコミュニケーション力を育成している。	3.5	生徒が主体的に探究活動できるスタイルになるように改編してきているがさらなる充実を図りたい。今後とも地域協働活動を高める教育活動を一層推進していきたい。	幅広い学力層への対応、通級指導、補充指導でずいぶん救ってもらっている。
4 教科、学校設定教科・科目、総合的な探究の時間は教科横断的な側面を持ち、アクティブラーニングとなっている。	3.0	異なる科目に講師として参加するといった教科の枠を超えた取り組みも散見された。生徒たちは協働的に探究活動に取り組み、その成果を発表する活動を通して、自らの学びの意義や取り組みの価値について理解を深めている。より多くの生徒が外部機関の主催する発表会等へ参加できるよう機会を設定することで、学びを深めさせた。	村高生はよくあいさつができています。社会で大切なことは小学校・中学校・高校とつなげて頑張らなければならぬ。村岡高校が、通級・支援を要する生徒を受け入れてくれるのはありがたい。サポートファイルが大切だということを根本に進路先につなげたい。
5 学校設定教科・科目、総合的な探究の時間は、その活動をまとめたプレゼンテーションを行い、汎用効果を高めている。	3.3	学習活動の評価となるプレゼンテーションを村高フォーラム・総合的な探究の時間等で行うことにより、評価、改善を行い、成果をあげている。今年は発表に加えて討論する場を設けた。さらなる充実を目指したい。	
6 特別な配慮を必要とする生徒への対応を行っている。	3.5	面談や通級による指導の実施、サポート会議での支援の検討、「個別の記録」を活用し生徒情報の共有等を実施し、非常勤講師への情報共有もできた。支援方法の見直しやよりよい方法の選択がより適切に実施できるように今ある仕組みをブラッシュアップしていきたい。	
7 学校行事は生徒の経験値を高め、達成感を涵養し、自己有用感を高めるものとなっている。	3.4	学校行事によって高校生活が充実していると生徒の99%・保護者の100%がアンケートに回答しており、自己有用感を高めることに至っている。今後も生徒会を中心に村高祭等に継続して取り組むことが重要である。	村高生は素直・真面目な生徒が多い印象。しかし、言われたら動くが、言われなければ動かない。資料にあるように新しい取り組みも多くあるが、村岡高校に行きたくなる尖った特徴が必要になる。学校をどうしていくか意見交換する場も必要。今は一方的に学校が意見を聞いている状態。
8 教科学習を含めた3年間の学びを、進路実現に繋げている。	3.1	授業を中心とした教科指導により学力向上を図ることができた。類型や総合探究を通じて地域に出ていくことで、教科学習だけでは得られない知見を得て志望理由書に活かすことができた。年内に進路が決定する生徒が大半を占めるなか、目標を言語化することで進路決定後も学習を継続するよう促していききたい。	
9 学校教育活動全般において、グラデュエーション・ポリシーにおいて育成を目指す能力の充実に取り組んでいる。	3.1	学校設定教科「地域探求」、総合的な探究の時間「村高発★地域元気化プロジェクト」等で目指す能力の育成に取り組む、成果をあげた。卒業後の進路実現、卒業後の人生に生かせるようにさらに取組を深めていききたい。	
10 【1年】基礎学力の定着を図るとともに、自ら学ぶ力を育む。	3.0	小テストや課題、補習を実施することで、徐々に学習習慣の確立ができてきている。学力差が大きい学年であるので、日々の学習に課題がある生徒に対して丁寧に指導するとともに、生徒の興味・関心に応じて個々の学習を深化させられるように指導していきたい。	探究発表では発表者は立派であったが、その後討論にならない。討論ができるようになれば進学先も増えるのでは。主体的に取り組めれば成長につながる。そんな貪欲さがあってよい。
11 【2年】進路実現に向けて、自己理解を高める指導を行う。	3.1	学級担任による面談、校外で行われた進路ガイダンスへの参加、外部講師を招いての進路に関する講話などを聴くことにより、自分事として将来を考えることができた。3年次に向け、基礎学力の徹底を図り、入試に挑戦できる学力を養っていききたい。	
12 【3年】学校生活で得た知識や技能、経験をもとに自身の考えを積極的に発信し、進路実現に繋げる。	3.2	年度当初より志望理由書の記入・受験のスケジュール管理等について指導し、確固たる意志のもと、見通し立てて進路実現に向かう姿勢を養うことができた。また、類型や総合的な探究の時間の活動において培った力を自覚させ、自信を持って自己をPRできるよう促した。	
III 人材の育成について			
1 生徒面談や「いじめアンケート」等を通して生徒の実態を把握し、学校生活を円滑に送れるよう適切な指導を行っている。	3.5	日常的な生徒観察はもちろん面談（学年等）やいじめアンケート（年3回）により生徒実態の把握に努めている。さらには教職員間の情報交換を密にし、組織的な対応による指導の強化に努めた。	発表者の発表スキルはできているが、質問や感想は発言ができていない。その場で発言することに躊躇がある。双方向に対話しながらは難しいのかも。生徒が思うことをどう発言させるか。あの場面だから話さないのだろうか。
2 教育相談や生徒面談を行い、生徒一人一人の理解と情報共有に努めている。	3.5	日常的な生徒観察・教職員による情報交換を行っている。また教育相談委員会（週1回）での定期的な情報共有、キャンパスカウンセラーのこころの健康相談（年27回）等により予防的カウンセリングに努めている。今後も継続して取り組みたい。	
3 学校教育活動全般（生徒会活動、部活動等を含む）は、生徒の責任感やリーダーシップ、思いやりなどを涵養している。	3.4	一部の活動的な生徒に関しては、生徒会活動や部活動等を通して、責任感やリーダーシップなどを涵養できている。全ての生徒に対して、役割を全うし、責任感を涵養する場を作ることが課題である。	
4 【健康・安全教育、防災教育】保健だよりや救急救命講習などを通して、健康や安全に対する意識を高めている。	3.4	保健だよりは月に1回程度の割合で発行しており、緊急連絡メールを活用して保護者へも情報発信ができた。救急救命講習では地元の病院の看護師の指導のもと、意識の向上を高めることができた。	
5 【社会人キャリア教育】家庭科等の授業や地域人材による授業、外部講師による消費者教育、ライフプランニング講座を通して社会参画への意欲を育成する。	3.4	昨年度と同様地元の事業所をお招きし、話をいただいた。生徒達は興味を持って聞いており質問をする場面も見られた。地元を目に向け、自分の将来を見据える良い機会になっていた。事業所からは時期の変更や、もう少し時間があればありがたいとの意見もあり、実施時期、方法を検討することも必要である。	
6 【1年】HR活動、学校行事、地域協働活動などを通して、互いを認め理解し合う人間関係を育てる。	3.3	人権HR等で自他の違いを知り、他者の個性を尊重する姿勢や相手の立場に立って考え行動しようとする意識を高めることができた。また、学校行事や地域協働活動に対しては、自らの役割を自覚し、協力しあうことでよりよい人間関係を築くことができています。	
7 【2年】自分の言葉で自分を表現できるコミュニケーション力を育成する。	3.3	一分間スピーチを実施し、自己理解を深め、自分を表現することができた。修学旅行・生徒会活動・学校行事・部活動など学校内で中心的存在として活動し、自己有用感を高めることができた。また、学年集団としての意識を持ち、コミュニケーション力を育成することができた。	
8 【3年】リーダーシップと社会性を持った人材を育成し、新たな挑戦を促す。	3.3	学校行事、総合的な探究の時間等では、自己の役割を自覚し、活動の中心となって活躍する生徒の姿を折に触れてみることができた。地域の方々との協働活動においても、村高生としてふさわしい姿を示し、後輩のよき手本となった。リーダーとなりうる人材に備わっていた点は否めないが、全体として意欲的に諸活動に取り組むことができた。	